

マイスターになるには？

この本を読んだ皆さんは、いったいどんな感想を持ちましたか？

「世の中にはこんなにいろいろな職業があるのか?」、「それぞれの仕事を極めた人たちが、マイスターと呼ばれているんだな?」、「マイスターはみんな自分の仕事が好きなんだな?」、きっといろいろな感想があると思います。

「仕事って何だろう?」、「自分にはどんな仕事が向いているのだろうか?」と、自分なりに考えてもらうきっかけの一つになればいいと思います。

マイスターのお話に共通することがいくつかあります。ここでは、それについてお話ししましょう。

「好きこそ物の上手なれ」

何事も、好きであれば、自然それに熱中するので、上達する、という意味のことわざですね。「自分の好きなことは何ですか?」。皆さんは、すぐに答えることができますか? 「別に、とくにないよ」と言わずに、ちょっと考えてみてください。絵を描くのが好き、プラモデルを作るのが好き、お人形遊びが好き、きっと何かあるはずです。好きなことは、得意なはずです。他の人より、ちょっとだけ上手なことは、誰にもあると思います。そこに、あなたの将来の仕事を見つけるヒントがあります。

自分の得意なものが見つかったら、それを生かせる仕事って、何だろう? と、考えてみてくださいね。このマンガの本がその参考になると幸いです。また、どんな専門学校や職業訓練校があるか?、探してみることも大事です。もちろん高校や大学を出てからでも遅くはありませんよ。専門学校や職業訓練校で知識や技術を身に付けることによって、希望する仕事に進む近道がきっと見つかることでしょう(P208の図を参照してください)。

「石の上にも三年」

辛抱していれば、やがては成功する、という、忍耐力が大切なことのたとえです。専門学校や職業訓練校を卒業して、企業や店舗に就職したり、親方に弟子入りするなど、希望する仕事に就いたとしても、いきなり一人前の仕事ができるわけではありません。学校と実社会ではまったく厳しさが違います。予想もしなかった困難もあるのが当然です。実社会では、学校では勉強できない貴重な経験を学べるという側面もあります。

～未来のマイスターへ～

実社会の仕事の現場で、ある程度の経験を積むことによって、職種によっては、「技能検定」という国家検定制度にチャレンジしようという目標も出てくるかもしれませんね。プロとして通用する技術や知識を身に付け、特別な技能を発揮できるようになれば、独立したり、開業することもけっして夢ではありません。この本に登場するマイスターの中にも、「一国一城の主」はたくさんいましたよね。そして「石の上にも三年」どころか、30年も40年も続けられたことで、マイスターとして認定された方ばかりでしたね。

この本を読まれた皆さんの中から、きっと未来のマイスターが生まれるはず、そう希望し、確信しています。

技能を身に付け、マイスターをめざす道は、さまざまです

